

第 4 回原子力委員会定例会議議事録（案）

1. 日 時 1998 年 1 月 20 日（火）10:30～12:00

2. 場 所 委員会会議室

3. 出席者 藤室委員長代理、依田委員、遠藤委員、木元委員
日本鉱業協会 秋元会長（三菱マテリアル株式会社代表取締役社長）
財団法人電力中央研究所 西島原子力情報センター所長
（事務局等） 今村審議官、林政賢課長
伊藤原子力調査室長
池本専門委員
土屋核燃料課長
核燃料課 松尾、片岡、見澤
三菱マテリアル株式会社 石井取締役
日本鉱業協会 弥永
資源エネルギー庁原子力政策課 小松
原子力調査室 松澤、杉本、新井

4. 議 題

- （1）動燃事業団の海外ウラン採鉱について日本鉱業協会から意見聴取
- （2）日本の原子力発電所について
- （3）その他

5. 配布資料

- 資料 1 動燃の海外ウラン採鉱業務について
- 資料 2 日本の原子力発電所
- 参考資料 N1C レビュー
- 資料 3 第 3 回原子力委員会臨時会議議事録（案）

6. 議 事 項

- （1）動燃事業団の海外ウラン採鉱について日本鉱業協会から意見聴取
標記の件について、日本鉱業協会会長である秋元三菱マテリアル代表取締役社長より資料 1 に基づき、動燃事業団の海外ウラン採鉱業務に関して意見聴取した。
委員より、
①「国またはこれに準ずる機関で維持」していくことについて具体的なイメージを持っているか
②国の機関が開発する場合と、民間が開発主体となってこれに助成する場合のいずれが望ましいと考えるか
③非鉄金属資源一般とウランでは技術者を共有できないか
④鉱山数が 80 年代に比べ一桁近く減少しているがその理由は何か。また、一旦閉山した鉱山を再開発することで開発のリードタイムを短縮できないか
⑤基本的な認識は同じであるが、これをどう具体化していくかが問題。国策民営が進む我が国の状況をグローバル化の潮流の中でどう捉えていくかの観点が必要
⑥民間と国の新しい役割分担を作っていくことが大切
等の質問あるいは意見があり、これに対して秋元会長より
（①、②に対して）具体的なイメージはまだない。いろいろなやり方があると思うが、何らかの形で国が関与することが望ましいと思う。市場が成熟していないところで民間が技術者を抱えて開発を行うにはリスクが大きい
（③に対して）ウラン開発には特殊な技術が必要
（④に対して）閉山は環境保全上の制約による場合が多い。また、閉山したものは

- 最近の鉱山に比べ品位が低く、再精製の可能性は少ない
(⑤に対して) ウランは他の資源に比べて特殊なものであり、ナショナルセキュリティが重要
(⑥に対して) 我が国の消費比率に見合う程度の開発を促進し、ウラン鉱山の開発が世界的に低調な状況の中で日本の消費見合分ぐらいは最低限確保していくべき
等の発言があった。

(2) 日本の原子力発電所について

標記の件について、財団法人電力中央研究所西島原子力情報センター所長より資料2に基づき、本資料作成の経緯、内容等について報告があった。

これに対し、委員より

- ・補修事業者など電力会社以外の原子力関係者や消費者と接点を持つ関係者については、基本的な知識や認識を持つことが大切
- ・原子力施設のトラブルに関する記載も大切だが、そもそもトラブルに至らないための平常時の安全確保に関してもよく理解してもらうことが重要

等の意見があった。

(3) 議事録の確認

事務局作成の資料3第3回原子力委員会臨時会議議事録(案)が了承された。

なお、事務局より、次回は1月23日(金)に臨時会議を10:30から開催する方向で調整したい旨発言があった。